

目標達成計画

事業所： グループホームこもれびの家

作成日： 平成23年12月15日

市町村受理日：平成23年12月16日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	13	ご家族から『困っていること不安に思っていることを良く聞いてくれるか』という問いに『あまり聞いてくれない』という返答があった	次回のアンケート結果が『あまり聞いてくれない』という評価を無くする。	面会時など職員に話しかけて頂ける雰囲気作りを職員に徹底する。また、家族に対しても声かけを行なっていく。	1年
2	16	日々のサービスを提供する中で職員間の『認知症』についての専門知識の格差を感じる	職員間の『認知症』専門知識の格差を減らす。	定期的に勉強会を行う。（2ヶ月に1回）	1年
3	23	日常生活の中で、各利用者の意向、状態の把握、またスタッフの気づき等に関しての記録が不十分であり、より情報の共有化ができる工夫が必要と考える。	職員全員で共通のアセスメントツールを用いて、利用者の実態把握に務めることができ、地域住民の一員として利用者の生活の質の向上に繋げることができる。	利用者に関する情報や気づきを、日々のケアの実践の中で記録できるような工夫を行う。具体的にはセンター方式の書式を活用し、利用者のアセスメントを充実しプランニングに反映する	1年
4	33	事業所として、ターミナルケアを実践するにあたり、本人、家族の意向の意向を十分に汲み取り、関係者機関等をを含め方針の統一化を図る必要がある。	本人・ご家族の意向の確認を行い、その他関係機関との話し合いを重ねること、看取りケアの方針の統一化が確立できる。	実際に家族、医師等のその他関係との話し合いを重ねることや、本人の状態を家族や各機関に逐一報告し情報の共有化を図っている。現在は方向性に関しては統一することができている。	1年
5	52	1階の廊下は雑木林や車庫があり、陽の光があまり差し込まないので、薄暗く感じられる。そのため利用者様も昼と夜間違えてしまう可能性がある。	電球を付け直すこと等によって、屋内の明るさを確保することができ、利用者が昼夜の間違いによる混乱が起きることがないよう環境整備を行う。	電球の配置を変更したり、明るい電球に変えたことによって、日中の薄暗さは改善できました。今後も明るさや音などによる刺激に対して配慮していく。	1年

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。